

進捗状況の概要（1 ページ以内）

1. 学内の実施体制

本学は8学部15学科から構成されており、品川・熊谷の2キャンパスで学ぶ環境を整えている。AP事業は熊谷キャンパスにある地球環境科学部（環境システム学科・地理学科の2学科）単独で採択されており、以下の体制で他学部へのアクティブ・ラーニングの普及にも取り組んでいる。

学長を委員長とする全学AP推進委員会（学事担当副学長・FD担当副学長、各学部長、AP運営委員長から構成）において全学的なALの展開を年間3回審議し、教務委員会、FD委員会と連携してAP推進に携わる。各組織は、総合経営企画課を中心として、学事課、情報システム課、研究推進・地域連携課などの事務局と連携を図りながら活動している。平成29年度には、学長を中心とした教学面での教育改革推進を実現する全学的体制や中長期計画を整えた。

地球環境科学部でのAL推進には、地球環境科学部AP運営委員会を組織し、原則として毎月第4水曜日に学部AP運営委員会を行っており、取組内容について審議および報告がなされている。AP運営委員会のメンバーは、地球環境科学部長や両学科主任を含む22名で構成され、ALの導入や普及の取組みを審議する体制となっている。

AP年次報告会とAP外部評価委員会は、委嘱した5名のAP外部評価委員とAP運営委員長、各プロジェクトリーダーなどによって毎年度末に実施している。AP学生評価委員会を期末ごとに計2回実施し、各期とも10名の学生からワークショップ形式でAL導入科目の利点や問題点をヒアリングした。

2. 中心となる取組

本学のAP事業の取組みは以下の4つのプロジェクトを中心的な取組みとしている。A：タブレットを利用した双方向授業、B：予習用動画の作成と公開による反転授業、C：学生主体のフィールドワーク・実習科目、D：リアル教材の収集と活用。私立大学にみられる多人数講義科目に対して、双方向授業と反転授業を取り入れることにより学生の学びを能動的にし、リアル教材を用いて専門科目に対する興味を引き出すことを目的としている。一方、本学部の特徴であるフィールドワーク（野外調査）の教育知見を集約し、学生の自主性や協調性を重んじた指導方法を深化させる。その一環として、AP学生研究プロジェクトを公募制で実施し学問を学生自身の力で探究する試みを支援した。地域連携事業の推進により社会と大学のつながりを学生に意識させ、卒業後のキャリアを見据えた学修行動に結びつけ、企業人事担当者を招いて大学・社会人教育懇談会を実施した。

3. 取組の成果

4つのプロジェクトについてより多くの教員がAL推進に取り組んでいる。指標の量的増加は緩やかな部分もみられるが、ALの本質を議論して教授法を工夫するほか、学生の視点から躓きの原因を探るなど、教職員と学生が相互に意見交換を行い、ALが質的に向上している。また単独学部採択ではあったが、全学的な波及措置を具体的に進める準備が全学AP推進委員会のもとで整備されてきた。

4. 補助期間終了後の継続発展に向けた取組

本学におけるAP事業を推進する体制はいずれも継続的なものであり、通常の研究費及び管理経費の中で扱うことが可能である。そのため本取組は、補助期間終了後も継続的かつ発展的に実施していくことを十分見込むことができ、全学AP推進委員会でも承認されている。人材配置についても、現在の形を基本的に引き継ぐことが可能であり、AL推進は本学の学長政策事業として位置づけられ発展的な展開を行う方針である。

5. 学内外への波及効果

教員向けFDフォーラムや新任研修会などを実施し、ニュースレターの発行、立正大学学園新聞でのAL事例の紹介、HPの更新などを行った。また学会発表や研究会の主催なども行った。